

# ICTが新しい手段となり 学びを豊かに

— 岩手県北上市

## 目的

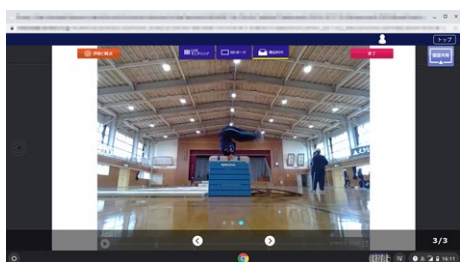
- 場所に依存せず学べる環境を提供したい
- 児童生徒の学びを豊かにしたい
- 市全体の教育活動を活性化させたい

## アプローチ

- すべての小中学校へどこでもつながるLTEモデル端末を導入
- 適材適所のデジタル活用を促進
- 学校外における教育活動へも導入端末の活用を促進

## どこでも通信できるLTEモデルで学びの可能性を広げる

北上市ではGIGAスクール構想に基づく環境整備にあたり、安定した通信環境の整備を速やかに行うことを重視してLTEモデルを選択しました。一人1台の端末としてLTEモデルのChromebookを導入したことで、学校内で場所を選ばずに柔軟な活用が行われています。さらに家庭への持ち帰りや学校を越えた学びの場の創出にも積極的に取り組んでいます。



### 授業のツールとして無理なく自然な活用を

同市内の小中学校ではもともとWi-Fiが未整備だったため、LTEモデルの端末を導入することで通信環境を整えました。同市の平野憲教育長は、LTEモデルを選んだ理由にどこでも端末を利用できるメリットをあげます。**家庭の通信環境に依存せずに**

**学校と子どもたちが遠隔でつながる点が決め手となりました。**

平野教育長はICT活用について、「授業のツールの一つであって、端末を使うためだけの授業にはしてほしくないと考えています」と話します。その基本姿勢のとおり、各校では便利なツールを授業のどのような場面で使うか試行錯誤を重ねています。北上市立黒沢尻北小学校の船田浩校長は、「私の想像を上回るスピードで活用されています」とその様子を語ります。たとえば**理科の天体の宿題で端末を持ち帰って夜空を撮影したり、体育で技を撮影しあって自分の動きを確認したり、畑の学習ではヘチマの観察記録をつけたりと活用方法は多彩です。**また、欠席者へのオンラインの授業配信にも対応しています。

一方で先生方の使い方は、職員会議は端末持参で行い、児童へのアンケートはオンラインで行うなど授業以外でもICTを活用しています。「アンケートの作成は簡単で、回収と集計が一瞬で終わり**労力の削減になりました**」と船田校長。教員研修や校長会など市内の連携も、状況に応じてオンラインで実施されています。



### 北上市教育委員会

〒024-8501 岩手県北上市芳町1-1

URL: <https://www.city.kitakami.iwate.jp/>

岩手県の美しい田園風景が広がる平野部に位置する北上市には、小学校が17校、中学校が9校あります。GIGAスクール構想に基づく環境整備では、全小中学校にLTEモデルのChromebookが導入されました。2021年度から各校で一人1台の端末の活用がはじまっています。



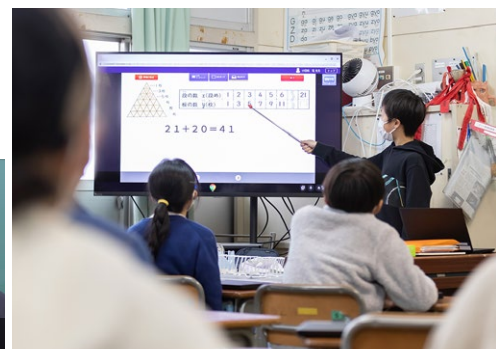
[取材協力] 北上市立黒沢尻北小学校

# 学習手段の変化が学びやすさにつながる

## 学び合いの経験でコミュニケーション力が向上

黒沢尻北小学校の6年生の算数の授業では、ピラミッド型に配置された図形をもとに、並んだ数字の法則性を見つけ出す活動が行われていました。6年生算数科担当の小田嶋竜教諭は、児童の端末に課題を配信し、子どもたちは自分の考えを画面上でまとめて先生に送ります。先生の手元では瞬時に全員の意見を確認できるため、これまでよりも多様な視点に気づくことができ、一人ひとりの理解度に目が届きやすくなりました。

グループでの意見交換では、みんな慣れた様子で画面を見せ合っています。学び合いの時間が増えたためか、「説明したり人の話を聞いたりするコミュニケーションの力が以前よりもついてきたと感じています」と小田嶋教諭は話します。



## 適材適所のデジタル活用で作業/業務負担が軽減

デジタルの軽快さを試行錯誤して考える部分に取り入れつつ、ノートで手書きして手元に残すことも大切に行っているため、算数の授業の最後の問題はノートで解きました。国語の作文では、下書きはデジタルで行い清書は手書きのスタイルです。児童からは「紙に書くよりも速く書けるし楽しい!」「手書きより間違ったときに直すのが速い」という声。推敲のしやすさにより、内容を深めることに集中できている様子が伝わってきます。

デジタルへの置き換えにより、卒業文集の原稿チェックが格段に容易になり、日頃の授業準備時間も大幅に削減できていると小田嶋教諭は実感しています。実技教科では動画で記録を残せるため、テストや評価の大きな負担軽減効果が出ています。



# 持ち帰った端末でALTによるオンライン英会話を実施

## 英語のスピーキングスキルの向上に

北上市ではグローバル人材育成の一環として英語教育に力を入れています。具体的には実用英語技能検定の受験料全額補助や各中学校区へのALT（外国語指導助手）1名の配置、幼稚園や保育園、小中学校への派遣といった取り組みです。さらに新たな試みとして21年度の冬休みには中学1～3年生を対象に少人数制オンライン英会話教室を実施。最大3名までのこの講座では、ALTが講師を務め参加生徒はChromebookで自宅からアクセス。学校が異なる生徒同士でも同じLTEモデルなので同様の接続環境が確保できます。

講師はオンラインで生徒を相手に、ゲームや言葉遊びを取り入れて会話を進めました。普段の授業とは違い英語科の先生のサポートはなく、生徒自身が言葉を返さなければコミュニケーションが止まってしまいます。楽しいなかにも適度な緊張感が生まれとてもよい雰囲気です。



## 一人1台端末が学校を越えた教育活動を促進

ALTのみなさんは、少人数の英会話教室について「大きなグループでの学習とは違うスキルを練習できますね」「英語が好きな生徒にとってはレベルアップするとてもよい機会です」と話します。また、「オンラインだとマスクなしで口の動きを見せられるのがいい」とも。参加した生徒からは「緊張したけれど楽しかったです」「自分から話をする貴重な機会になりました」などの声があがりました。はじめは英語への怖さがあった生徒も自信につながったようです。

同市では、不登校や日本語指導が必要な児童生徒のための学びのサポートセンターを2022年1月に開設し、LTEモデルのChromebookを在籍校との連携や学習に活用しています。また、市民講座の講演をオンラインで実施するなど、DXが始まっています。



お問い合わせ

株式会社NTTドコモ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター(☎0120-808-539)

受付時間：平日午前9時～午後6時(土・日・祝日・年末年始を除く)

法人のお客さま ドコモビジネス

Smart World for Education

[https://www.docomo.ne.jp/biz/special/education\\_ict/](https://www.docomo.ne.jp/biz/special/education_ict/)

docomo  
business



※本チラシの内容は2022年1月取材時点のものです。